

継続事業評価調書
【河川事業】

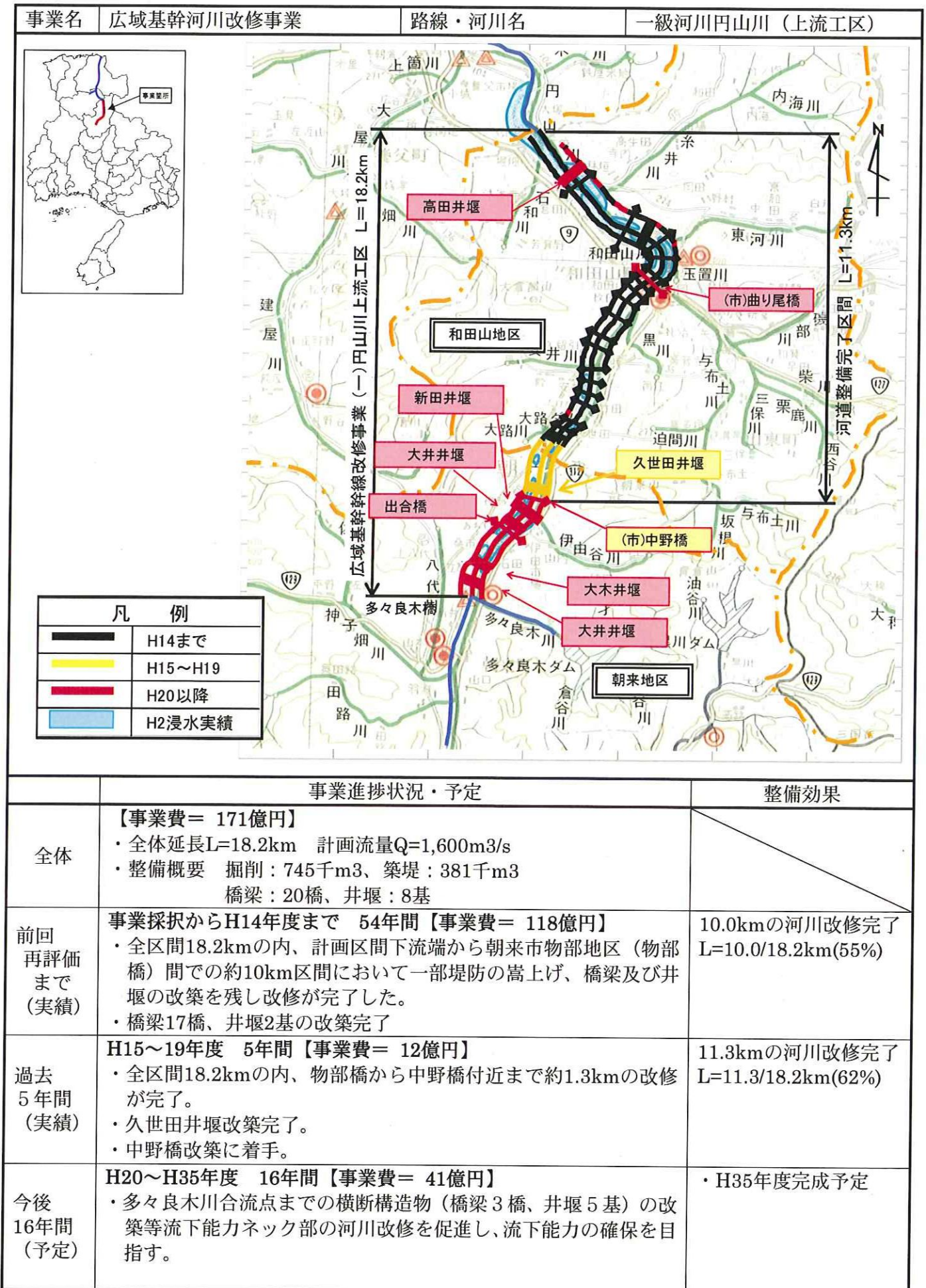
一級河川 円山川（上流工区）

土木局河川整備課

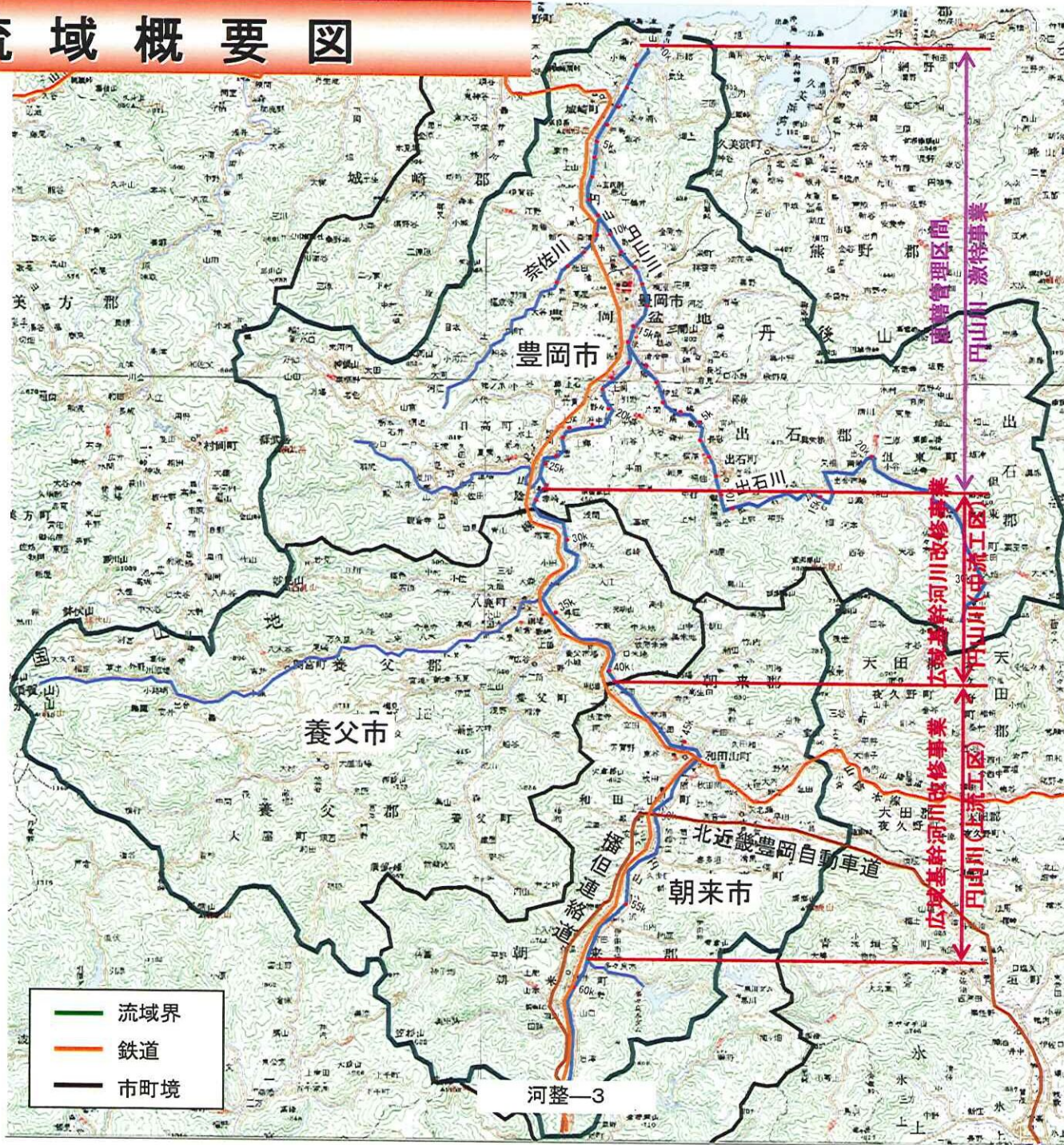
投資事業評価調書（継続：再評価〔第3回〕）

部課室名	県土整備部 土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課 森脇康仁 (治水係長 松井三思呂)	内線	4408 (4437)
事業種目	河川事業	事業採択年度	S23	現計画	再評価時点(H10)
事業名	一級河川円山川 広域基幹河川改修事業 (上流工区)	着工年度	S23	総事業費	171億円
		再評価年度	H10(前回) H14(整備計画策定)	内用地補償費	24.8億円
事業区間	朝来市和田山町高田～朝来市多々良木			完成予定年度	H35
所在地	朝来市和田山町高田～朝来市多々良木			進捗率 (内川補進捗率)	76% (88%)
				残事業費	41億円
事業の目的			事業内容		
平成2年9月台風19号による洪水が安全に流下できるよう整備を進め、地域住民が安全で安心して生活できる環境を確保する。 昭和23年より和田山地区の事業に着手し、昭和63年には朝来地区の事業に着手。			現計画		前回 (H10)
			計画流量	1,600m ³ /s (1/60)	1600m ³ /s (1/60)
			整備延長	18,200m	18,200m
			橋梁	20橋	25橋
			井堰	8基	11基
〔負担割合 国1/2, 県1/2〕					
事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	<ul style="list-style-type: none"> 平成14年度に「円山川水系円山川上流圏域河川整備計画」を策定し、事業を促進している。 播但連絡道路に接続する北近畿豊岡自動車道(H17)の開通など、今後市街化が進む可能性が高く、浸水被害を防止する必要性は高まっている。 平成16年10月台風23号の出水では、豊岡市内の円山川や出石川において大きな浸水被害が発生したことから、河川改修促進の地元要望も高まっている。 				
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 下流から改修を進め、全体18.2kmの内11.3kmが概成しており、橋梁17橋、井堰3基の改築が完了。 残事業は下流部の堤防嵩上げ、上流部6.9kmの堤防整備（嵩上げ、引堤）、及び橋梁3橋、井堰5基の改築となっている。 久世田井堰の改築を完了し、上流の中野橋架け替えを進めている。 これまで進めてきた改修事業により、平成16年出水において浸水被害は発生していない。 				
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性	<ul style="list-style-type: none"> 円山川流域は、S34年9月伊勢湾台風をはじめS51年9月洪水、S62年10月洪水など、過去多くの洪水に見舞われ、既往最大の雨量を観測したH2年9月台風19号では、多くの被害が発生している。 現在までに、全体18.2kmの内、下流端～中野橋下流までの間約11.3kmの流下能力を概ね確保したが、残る中野橋～多々良木橋間の6.9kmの流下能力は約50%と低く、引き続き河川改修を行う必要性は高い。 				
(2)有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> 費用便益比B/C=1.2 「円山川上流改修期成同盟会」をはじめとする地元協力体制や、用地補償が進捗していることなど、事業執行環境は整っている。 				
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> 井堰改築にあたっては、魚道整備を行っていく。 護岸整備については、自然石や多孔質の材料を使用し、生態系への配慮や親水性向上を図っている。 				
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> 進捗は76%まで進んでおり、残り事業区間には県南北を結ぶ国道312号や朝来地区の人家密集部があり、事業の優先性は高い。 				
再評価の結果	継続	左の理由	上記理由により、事業継続が妥当である。		

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第3回〕）



流域概要図



出水状況(H2.9台風19号)

【旧和田山町、朝来町 町境付近】

【上流端 多々良木橋付近】



円山川出水状況
(物部橋下流左岸の浸水)

整備状況(久世田井堰)

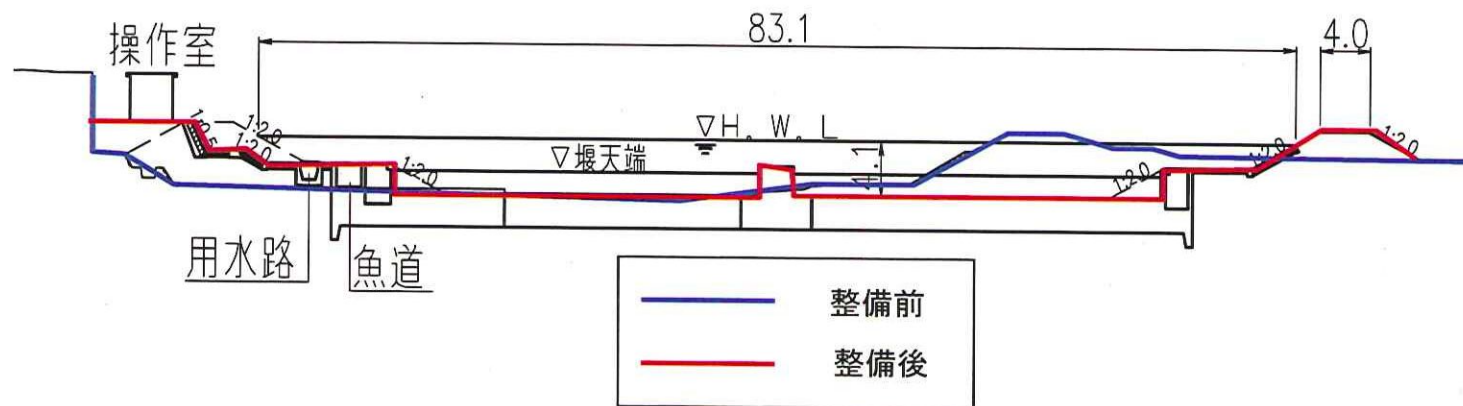
【 整備前 】



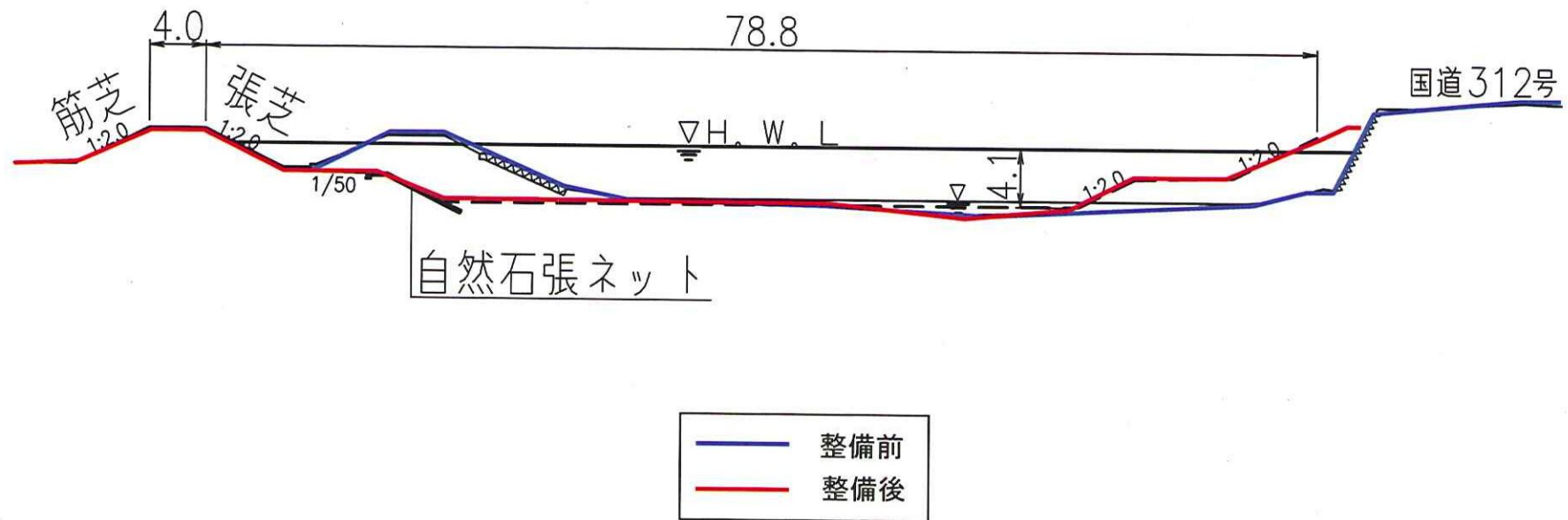
【 整備後 】



【 断面図 】



標準断面図



未整備区間現況

【中野橋】



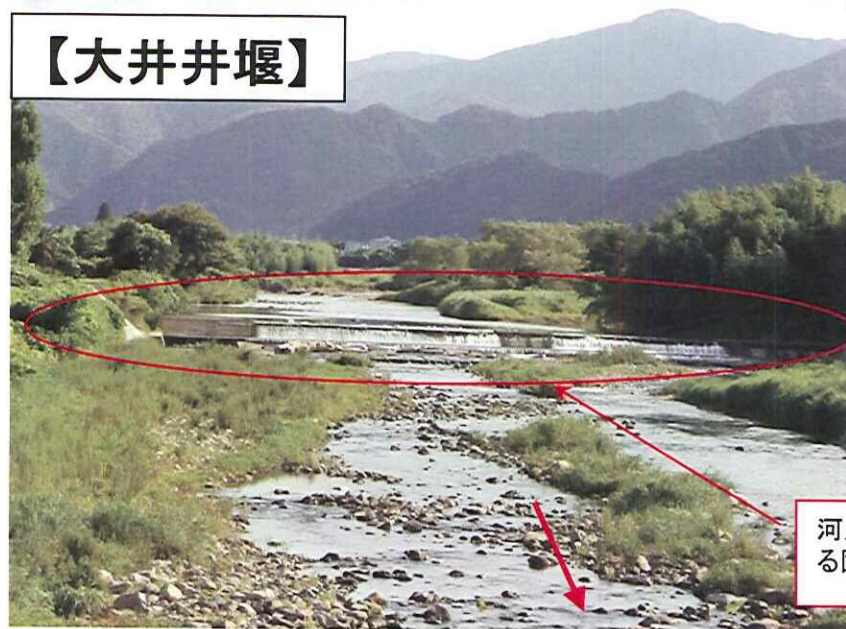
河川断面を阻害している橋梁
・市道と連携し架け替え
(7径間→3径間)

【出会橋】



河川断面を阻害している橋梁

【大井井堰】



河川断面を阻害している固定堰

◆円山川（上流）広域基幹河川改修事業スケジュール

	H14まで	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
用地買収	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
掘削	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
築堤	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
橋梁	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
堰	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

<凡例>
 当初計画
 実施計画

◆円山川（上流）広域基幹河川改修事業の費用便益比

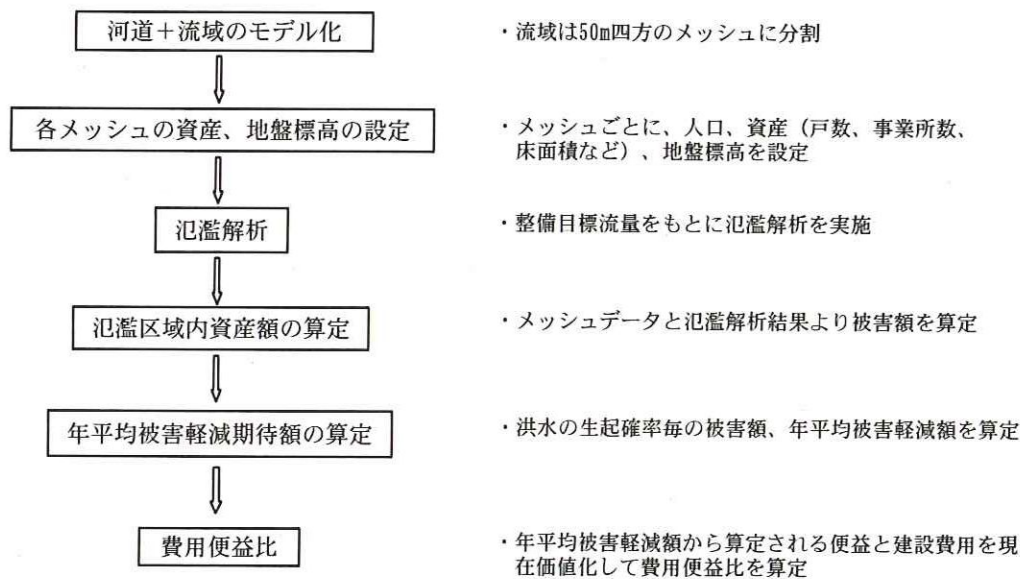
(1) 費用便益比の考え方

- 1) 便益＝治水事業を実施することによる被害軽減期待額を現在価値化
 被害額＝一般資産被害（家屋、家庭用品、事業所償却資産、農漁家償却資産等）
 ＋農産物被害＋公共土木施設等被害＋営業停止被害＋応急対策費用
- 2) 費用＝「建設費＋維持管理費－残存価値」を現在価値化

(2) 算定に用いた資料

治水経済調査マニュアル（案） 建設省河川局 平成19年2月

(3) 便益（B）の算出方法



(4) 費用便益（B/C）

便益(B)		費用(C)			B/C
総便益 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
253,719.0	・浸水戸数573戸(床上210)の軽減 ・浸水面積 286 haの軽減	209,379.0	188,202.0	21,177.0	1.2